

# 教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8  
兵庫県教職員組合  
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 戸卓也 織  
編集人 福山香 電話 050(3538)2346  
1部15円 年定価360円  
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2024/8・15

No.2099

・第52回兵庫県学校事務研究会  
・第35回栄養教員部夏季学習会  
・臨探部夏季学習会

## 女性部サマーワークショップ



7月26日、「性とらわれず自分らしく生きよう～笑顔で両立するために～」をテーマに、女性部サマーワークショップがラッセホールで開催され、約120人が参加した。

### 講座I



竹安栄子さん

竹安栄子さん(京都女子大学学長)を講師に招き、「なぜ、今『ジェンダー平等』が必要なのか」と題した講演がおこなわれた。日本初の女子高等教育機関である京都女子高等専門学校(現京大)の設立に尽力した女性たちや、当時の女性の参政権獲得運動にふれながら、「男女平等機会均等」が何をもちたかについて語られた。

○参加者感想より  
女性の社会での活躍の場が今日ではとても増えたと感じていたが、この考えが日本の「ジェンダー平等」を遠ざけていると学んだ。私たち女性がさらに活躍できる社会のため、今できることを探していきたい。

### 講座II

ジェンダー平等教育研究会研究員を講師に「やってみよう！包括的性教育」と題した講座がおこなわれた。「包括的性教育」とは、

「性の教育は、人権の教育である。一人ひとりが人間らしく健康で幸せに生きていくために重要である。包括的性教育を通して、自分を大事にし、相手を尊重



ジェンダー平等教育研究会による講座の様子



包括的性教育等の絵本や教材を見る参加者

○参加者感想より  
包括的性教育について初めて知った。絵本や動画を使って幼い頃から少しずつ系統的に教えていくことが大切だと感じた。きちんと授業で教えたいと思う。

○参加者感想より  
【第1分科会】「将来にそなえるお金の話」  
川原芳和さん(日教弘兵庫支部長)  
・給与支払明細の見方について詳しく説明を聞ける良い機会であった。  
・老後資金や退職後の資産運用について、今のうちによく考える必要があると思った。

### 講座III

「女性の働き方や人生設計」に関わる3つの分科会が開催された。

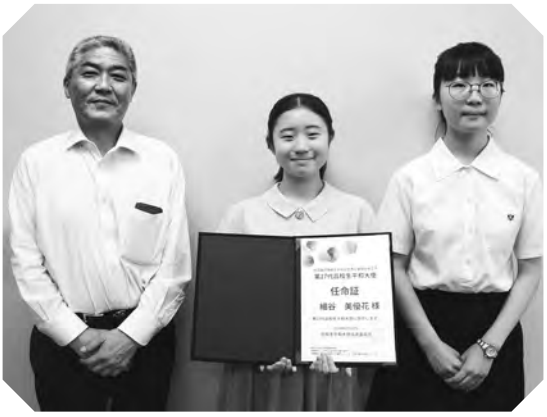
【第3分科会】「女性のリーダーシップとキャリア形成」  
瀧井智美さん(株式会社I C B代表取締役)  
・いろいろなリーダーシップの形があり、自分が得意なことからやってみることが大切だと学んだ。  
・リーダーシップやリーダーは、時代によって変化し、多様であることを、自分だけでなく、学校現場にも照らし合わせ組織づくりをしていきたい。

【第2分科会】「女性の健康課題と仕事の両立」  
塚田香織さん(社労士)  
・健康で働き続けるために、女性の体の変化や自分の身体を理解し、いたわってほしいと思った。  
・PMSや生理痛で、休みづらく相談もしづらい悩みを共有できた。少しでも生理休暇を取得しやすい職場になればよいと思う。

ジェンダー平等社会をつくるためには、多様性を認め合うことや、働き方を見直すこと、そして意思決定の場に女性が参画していくことが不可欠である。誰もが働きやすい職場づくりのため、今後とも取り組んでいきたい。

## 高校生平和大使来局

### 核兵器廃絶と世界の平和にむけて



勢溜 萌依さん(右)  
細谷 美優花さん(中央)  
森戸兵教組中央執行委員長(左)

7月23日、第27代高校生平和大使に選出された細谷美優花さん(小林聖心女子学院高校2年)、活動メンバーの勢溜萌依さん(県立豊岡高校3年)が兵教組に来局し、就任のあいさつと、日頃の支援に対して感謝の気持ちを伝えられた。

### 「高校生平和大使」とは

年に1度の公募で選出され、1998年より核兵器廃絶と被爆地の願いを国連欧州本部の訪問をはじめ、世界各地で伝えている。兵庫においても高校生自身がアイデアを出し合い、精力的に活動している。

### 「ブンブンすぶり」

福崎町立田原小学校 2年 松岡 大志

家ですぶりのれんしゅう中。もっとし合いでうたいたい。はじめはバッテリー手ぶくろをつけずに、今はバッテリー手ぶくろをつける。そしたらさつきよりも、ブン。大きな音が出た。何回もぶん。ブンブン。すくすくいい音。気持ちいい。もっともっとがんばる。

『いごもの詩と絵 第44集』より



第3分科会の様子



第2分科会の様子



第1分科会の様子

あんしん むすぶ  
教職員共済

突然やってくる災害。被害にあう前に補償の見直しを！

## 火災共済 & 自然災害共済

(住宅災害等給付金付火災共済)

教職員専用の共済で

### 災害に備える



補償に関する疑問や心配ごとを専用WEBページでわかりやすく解説！

自然災害に備えるには



地震補償は必要？



家財契約のみでもOK！

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください、制度内容をご確認ください。

資料請求・お問合せは

厚生労働省認可  
教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所  
〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8 ラッセホール4F

TEL 078-221-9730

イメージキャラクター あむりん



# 兵教組 夏の学習会 各専門部で開催!



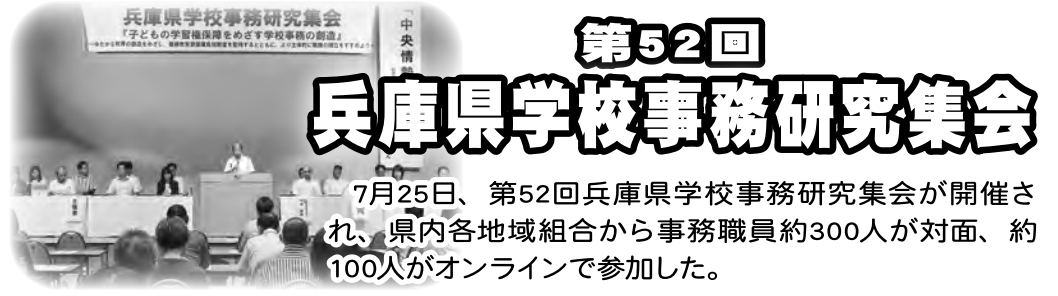
7月29日、第35回栄養教員部夏季学習会が開催され、県内各地域組合から栄養教員約100人が参加した。

全体会では、講師に藤井真理子さん(三田)、徳留千賀子さん(明石)、コイデイネーターに木岐日早子さん(兵教組栄養教員部副部長)を招き、「ともに考えよう、震災・学校支援チーム(EARTH)における栄養教員のとりくみ」をテーマにシンポジウムがおこなわれた。

その後、共同調理場、単独校(小学校、単独校(中学校)、特別支援学校の4つにわかれてグループ討議をおこない、それぞれの現場の悩みや各地域のとりくみなど、活発な討議が繰り広げられた。

## 第35回 栄養教員部夏季学習会

7月29日、第35回栄養教員部夏季学習会が開催され、県内各地域組合から栄養教員約100人が参加した。



## 第52回 兵庫県学校事務研究集会

7月25日、第52回兵庫県学校事務研究集会が開催され、県内各地域組合から事務職員約300人が対面、約100人がオンラインで参加した。

「子どもの学習権保障をめざす学校事務の創造」ゆたかな教育の創造をめざし、義務教育国庫負担制度を堅持するとともに、より主体的に職務の確立をすすめよう」をテーマにおこなわれた。

中嶋康晴日教組事務職員部長による中央情勢報告の後、3つの分科会にわかれて討議がおこなわれた。

分科会では、各地域の課題等について5本のレポート報告があり、県内共通の課題もあきらかになった。県内の学校事務職員が集まり、討議の時間を共有し、共通の問題意識をもつことで、これからの運動につなげていくことができる。参加者には、それぞれの地域で還流し、事務職員部や分科会でのとりくみにつなげていただきたい。



中央情勢報告  
「私たちがとりまく諸課題について」  
日教組事務職員部長 中嶋康晴さん

冒頭、能登半島地震にふれ、災害ボランティアのあり方について課題を投げかけられた。

次に、23年日教組事務職員部実態調査について、採用形態や時間外労働手当の方式等の諸課題について説明があった。

若年層の離職率や高ストレス者の割合が高いのは、一人職ならではの責任の重さや、多岐にわたる業務が要因であり、「教職員定数加配の交渉継続」等が重要である。また、諸業務をオンライン化することにより業務量の負担を軽減するこ

とが必要であると語った。

○参加者感想より  
・普段、部報や速報、新聞購読とアンテナを高くしているつもりだが、知らない情報ばかりであった。

・共同学校事務の実施要項など、まだ整っていないところがあるが、今後の動向に注目したい。給与その他の発生源入力が、はたして事務の効率化となるのかも興味深かった。

・学校事務の組織体制の重要性の大切さを感じた。もとめられる学校事務職員に少しでも近づけるように日々努力していきたい。

木岐さんより、震災・学校支援チーム(EARTH)の組織構成や平時および災害時の活動内容について説明があった。

その後、各講師から被災地の学校の様子、学校再開にむけた給食再開の経験談、子どもの心のケア等、被災地支援の活動内容について写真を交え報告があった。また、EARTHの活動を通して、「自分の防災意識が上がり、防災の観点から食育を見るようになった。他市町の教職員との人脈ができ、めぐりめぐって自分の仕事のプラスになった。」、「いろいろな職種職種の方で構成されているため、栄養教員以外の視点で子どもの様子を見ることができた。」と語った。

○参加者感想より  
・EARTHにおける栄養教員の活動内容や現地の様子を知ることができ、どんなことをしているのだろうというハテナ(？)が、ちよつとわかつたかも(！)になった。EARTHの実際の活動、防災教育など、子どもに返していけることがいいなあと思った。実際の活動報告を聞く機会があまりないのでよかった。

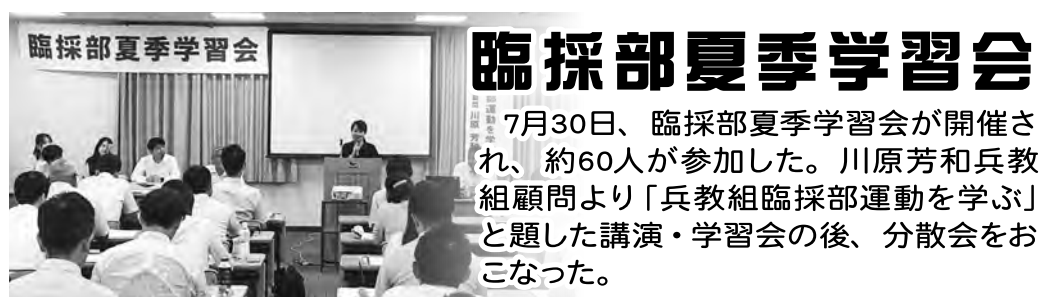
グループ討議  
○参加者感想より  
・地域によって実態が全然違うことがわかった。センター調理でのメリットもたくさんあるが、それぞれの課題があり、食数にあつた施設になっているのか、アレルギーの対応、食育の実施のしづらさなど、共感する部分もあった。市内内で問題点を解決することも大切だが、市町を超えて話を聞いてもらおうと参考になることもたくさんあり、有意義な時間になった。

・どの市町も同じような悩みを抱えていることがわかり、県内みんな課題解決していかないとけないことがたくさんあることがわかった。

分科会  
○参加者感想より  
・他地域の現状や課題、組合の歴史を知ることができ、自分の地域との比較の物差しを得られた。

・レポートの内容がこれまでに一風変わっており、事務職員として学校のために尽力されている貴重な実践例を聞くことができた。

・当たり前になってきている現状に対して改めて問題意識をもち直すことができた。



## 臨探部夏季学習会

7月30日、臨探部夏季学習会が開催され、約60人が参加した。川原芳和兵教組顧問より「兵教組臨探部運動を学ぶ」と題した講演・学習会の後、分散会をおこなった。



講演・学習会  
川原芳和さん

○参加者感想より  
・臨探部結成に至る経緯や時代背景、歴史についてよくわかった。たくさんの権利を勝ち取ってきたことを知り、臨探部のとりくみの大切さを改めて感じることができた。

・組合に入るメリットとは？と聞かれた時に答えるために、正規、臨探関係なく定期的にこういった学習会に参加することが大切だと感じた。

分散会  
冒頭、臨探部実態調査アンケートの集約結果(速報値)をもとに、働き方改革、雇用の継続、賃金・労働条件の改善等、臨時的任用教職員の待遇面について課題を共有した。また、任用期間や呼称問題、勤務条件等の交流や組織強化にむけたとりくみなど、日頃の悩みを出し合い、参加者全

員で学校現場の実態を交流することができた。

○参加者感想より  
・私の周りの教職員は、臨探部組合員のことを大切に思ってくれていることがわかった。

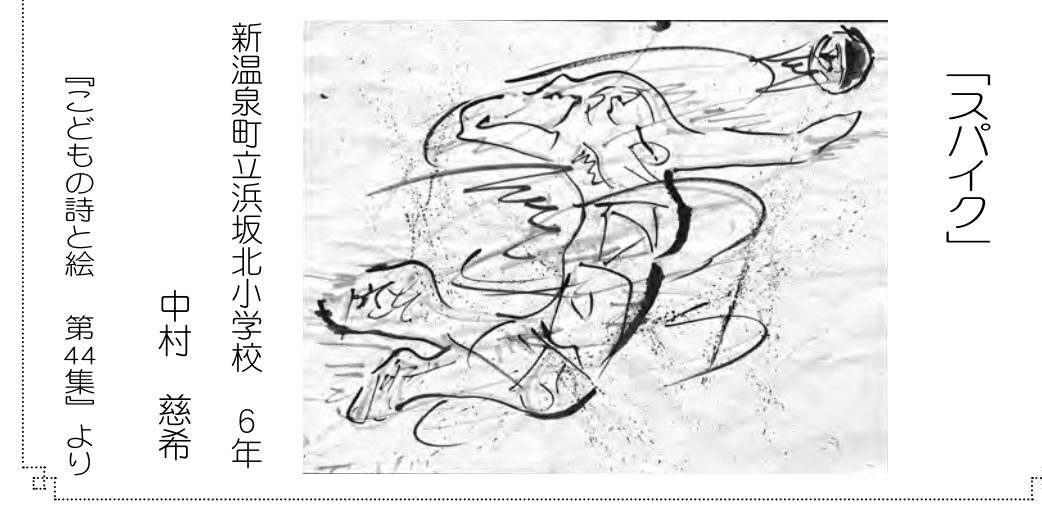
・他の地域組合が抱えている課題を聞き、自分が抱えている悩みを共有することで繋がりを感ずることができた。

「生きる」  
丹波篠山市立西紀中学校 3年 谷口 優奈

人はみんな生きていて、楽しい嬉しい苦しい寂しいどんな時でも「人生」という道を止まることなく歩いている

人はみんな生きていて、決して一人ではない時に立ち止まる日があつたって良い

人はみんな生きていて、お互いに助け合うことで初めて生きる意味が分かるだろう「生きる」って人(ひと)って一番の宿題だと思つて存在することが当たり前のことではないだからこそ人との出会いを大事にしたい



新温泉町立浜坂北小学校 6年 中村 慈希

『子どもの詩と絵 第44集』より